X-RATED6



ＷｏｏｄｙＶａｌｌｅｙパラグライダーハーネスは３年間保証付きです！！

ウッディーバレーハーネスについてカスタマー登録はがきをお送りいただいたお客様に、３年間保証をさせていただいております。

保証内容　　＊通常使用による保証期間　：　３年
＊クラッシュを含む使用状況を問わない保証期間　：　１年
（パーツ代や交換品については実費となります）
保障対象外パーツ（下記のパーツ及び部分については保証外・実費修理となります。）
＊ポッドハーネスのつま先部分（地面との摩耗部分
＊ネオプレーンゴム部分
＊ジッパー
＊超軽量ポッドハーネス X-Alps の頭部インフレーション部分
＊ハーネス本体以外の部品（カラビナ・プロテクション・成形用板・フットバー・座板　等

<u>修理に際しての往復送料については、お客様負担とさせていただきます。</u>

flight since 1977
Sports Opa Kite
㈱スポーツオーパカイト
東京：
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-24-15
TEL: 03-3291-0802
http://www.opa.co.jp/

メンテナンス部:　〒315-0101 茨城県石岡市大増 1900
〒315-0101 茨城県石岡市大増 1900
TEL: 0299-44-3642　FAX: 0299-44-3939
email: itajiki@opa.co.jp

THANK YOU！

この度はウッディーバレー社の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。この取扱説明書には重要な内容が記載されていますので、よく読んでください。特に最重要の２点について御注意ください。

緊急パラシュートの装填

あなたは緊急パラシュートによって命を救われるかも知れないのです。それは２日後に起きる事もあり得るし２年後かも知れません。いざと言うときに確実に役立つように取り扱いましょう。

ハーネスの調整

ハーネスはパラグライダーとパイロットをつなげる道具であり、フライトの楽しさと性能を最高に引き出すことのできる大切な存在です。出来の悪いハーネスでも最高の調整がなされていれば良いフライトを楽しむことが出来ます。しかしどんなに良いハーネスでも調整が悪いと飛べたものではないのです。

このハーネスによってパイロットの皆様が、快適に飛び、楽にコントロールし、性能を引き出し、フライトの喜びを存分に味わえるようになることを確信しています。取扱説明書を読むのは退屈な作業かも知れませんが、パラグライダーハーネスは身近な家電製品などとは違います。正しい使用方法を理解していただいて事故のリスクを減らしてください。この取扱説明書には、あなたのハーネスの組立、調整、飛行、収納に必要な情報が全て入っています。自分の装備について漏れのない知識を持つことによって、パイロットの安全と飛行レベルは確実に向上します。

セーフティー　ノート～安全に関するお知らせ

ウッディバレー社のパラグライダー機材を購入していただくに当たって、購入者は適切なパイロット技量を認定されたパラグライダーパイロットであることを自ら認め、負傷ないし死亡を含むパラグライダー活動に伴う全ての危険性を引き受けられたものとします。ウッディバレー社のパラグライダー機材の不正確あるいは不適切な使用はこれらの危険性を高めます。いかなる場合においても、ウッディバレー社およびウッディバレー社製品取り扱い店は、ウッディバレー社のパラグライダー機材使用に関連したパイロット本人あるいは第三者の負傷、あるいはいかなるタイプの損失についても、責任を持つものではありません。ウッディバレー社のパラグライダー機材の使用に関してのお尋ねは、まずご購入先かあなたの国の輸入店までお願いいたします。

Woody Valley

危険·警告
１）　安全に正しくお使いになるために、ご使用前に必ずこの取り扱い説明書を最後までよくお読みになった上で、指示内容を守ってお使い下さい。 **２）　本ハーネスはパラグライダー専用ハーネスです。その他の目的で使用しないでください。** **３）　本ハーネスは改善等の為、予告なしに仕様・価格等を変更する場合があります。**

INDEX

1　一般情報

この装備に含まれるのは：

ハーネス
カーボン座板
コンポジット フットプレート
カラビナ
緊急パラシュート開傘ハンドル
緊急パラシュートコンテナ閉鎖用バンジーループ（予備２個）
３段スピードバー
背部プロテクション
予備ブライダル
ラピッドリンク

オプション：　バラストバッグ（キャリングハンドル・チューブ・排水コック付）
フロントパラシュート
サイドプロテクター

１．１　コンセプト

Ｘ－ＲＡＴＥＤ６は、ウッディーバレー社の長年にわたるコンペティションハーネスの経験のなかでも究極の存在です。それは快適性・飛行パフォーマンス・空気力学・安全の面でプロフェッショナルなパイロットの高い要求を満たすべく設計され、そのためにこのハーネスは細部に至るまで念入りに改修を重ねて理想的なものとなりました。特にそのコントロール性の良さ・飛行パフォーマンス・空気力学的な形状は最新のコンペ機の性能を最高に引き出すように設計されたものです。
エックスレイテッド６の座板の下には、現在の競技規則で求められる２個のパラシュートを収納するスペースがあり、フロントには３個目のパラシュートを収納する事が出来ます。さらにこのハーネスは「アンチG」ドラッグパラシュートと脚・胸ベルト締め忘れ防止に役立つ新型の「ミニＴロック」セーフティーシステムを装備しています。

１．２　Ｘ－ＲＡＴＥＤ６のプロテクション

Ｘ－ＲＡＴＥＤ６はＬＴＦ認定１２ｃｍムース バックプロテクションを装備し、オプションで両サイドに補助プロテクターを装着する事が出来ます。

１．３　ミニＴロックシステム

ウッディーバレー社では、胸・脚ベルト締め忘れの問題に対処するべく、新型メカニズムを開発して以前のＤＲＣシステムをさらに発展させました。このシステムではメスバックルがそれぞれカラビナとレッグカバー クローズパーツについていて、このメスバックルを留めるオスのセンターパーツが脚ベルトについています：こうして、レッグカバーを閉めるにはパイロットは脚ベルトを握らなくてはならなくなり、脚ベルトをつけることを注意喚起してくれます。この新しいシステムでは作業性・認識性が向上していてグローブをつけていても作業可能です。





１．４　ＳＯＳラベル
赤地に白文字のとても目立つＳＯＳラベルが、右肩ベルトのパッドのポケットに入っています。すぐに取り出せますが、脱落しないようにハーネスにつながっています。このＳＯＳラベルの裏側に、事故の際に救急隊員に必要と思われるパイロットの情報を記入しておくことができます。



２　ハーネス使用の前に

Ｘ－ＲＡＴＥＤ６は、バックプロテクションとポリカーボネイト製プレートをメーカーで装着した状態で出荷されます。緊急パラシュートの装着は、認定インストラクターなどの然るべきプロの手によって充分な注意のもとに実施されなければなりません。それが完了するまでは、パイロットに合わせたハーネス調整は行なわないでください。

２．１　緊急パラシュート
Ｘ－ＲＡＴＥＤ６は新しい競技規則へ適合し飛行中の高い安全性を満たすために、座板の下に２個の緊急パラシュートコンテナを持ち、1 つは右に、もう１つは左につきます。さらにオプションでフロントのコックピットの下に３個目のパラシュートも装着可能です。座板の下のコンテナ部分は中の容量を調整でき、大きなメインパラシュートに小さめの予備パラシュートと言った使い方が出来ます。フロントのパラシュート収納部は、通常のパラシュートよりもずっと小さな軽量パラシュートを入れるように設計されています。
緊急パラシュートをハーネスの一体型コンテナに装填する前に、先に緊急パラシュートのブライダルをハーネスのブライダルへ接続して下さい。ハーネスのブライダルは２本タイプでパイロットの肩の高さ２箇所で接続され、このことで開傘時の荷重配分とパイロットの着地姿勢を確実にして、着地時に負傷する可能性を最小限に減らしています。このビルトイン式のブライダルのパラシュート側のエンドは、コーデュラ５００生地のカバーで補強された赤色の大きなループになっています。このループの端にはベルクロがついていて、緊急パラシュート側のブライダルとの結束が緩まないよう保持してくれます。そして予備パラシュート用にハーネスに付属してくる予備ブライダルはこれも付属のラピッドリンクでハーネスへ取り付けてください。方向操作できるパラシュートを使用する場合は付属のブライダルは使用せずに直接、ハーネスに接続してください。
以下のパラシュート接続・装填方法は左右いずれのパラシュートにも適用されます。

２．１．１　レスキューハンドルのデプロイメントバッグへの取り付け
Ｘ－ＲＡＴＥＤ６には、緊急パラシュート引き出し用のハンドルが付属しています。このハンドルの識別番号は６番で、そのほかのハンドルの使用は出来ません。ハンドルについている黒いループをデプロイメントバッグのループに通し、この黒いループの中にハンドル本体を通してからしっかり引き絞って、ハンドルを取り付けます。緊急パラシュートの引き出しを確実にするためには、緊急パラシュートの中心よりも引き出し口側の中心線上の位置でハンドルのループをデプロイメントバッグへ取り付けてください。もしも使用するデプロイメントバッグの取り付けループが適切な位置になかったら、緊急パラシュートをお買い求めになった販売店と相談してください。







２．１．２　緊急パラシュートのハーネスへの取り付け

Ｘ－ＲＡＴＥ６は２本式のブライダルのほかダブルライザーブライダルで方向操作できるパラシュート用の２つのループを装備しています。緊急パラシュート側のブライダルをハーネス側のブライダルへ接続するには、３つの方法があります。全て左右のコンテナに適用できます。

接続方法その１

2,400㎏ 以上の破壊強度を持つねじロック型のカラビナ（ラピッドリンク）を使用する方法。この場合、ブライダルに対してカラビナが回って横を向いて開傘時のショックで壊れることのないよう、ゴムバンドを用いて、ブライダルがずれないよう固定します。カラビナのねじロックはしっかりと締め、緩んできて開くことのないようにしてください。この方法は次の接続方法その２よりも高い開傘ショックに耐え、最もお勧めできる接続方法です。



接続方法その２

まず緊急パラシュート側のブライダルの端のループの中にハーネス側のブライダルを通し、つぎに緊急パラシュート本体をこのハーネス側のブライダル端の大きなループの中にくぐらせていき、２つのブライダルを引き絞って接続する方法。開傘ショックで合成繊維製のブライダル同士で摩擦が発生して破壊しないよう、出来るだけしっかりと引き絞ってください。そのうえで、結束部が緩んでこないよう、ハーネス側のブライダルについているベルクロで結束部を縛ってください。









接続方法その３
もし御使用の緊急パラシュートが操縦可能なもので２本ブライダルをもっているか、いずれにしても２本ライザーブライダルを装備しているものでしたら、肩ベルトの近くにあるハーネス側のブライダルの付根にある２つのループへ接続することが出来ます。この場合、ハーネス側のブライダルは、使用しないので、折りたたんで２本のゴムバンドで縛り、パイロットの首の後ろにあるカバーの下に収納してください。






２箇所のブライダル接続にはそれぞれ1,400kg 以上の破壊強度を持つねじロック型カラビナ（ラピッドリンク）を使用してください。また、緊急パラシュートのブライダルの長さが、開傘作業での緊急パラシュート引き出し時にも充分な長さを持ち、パラシュートをコンテナから引き出すさいにパラシュート本体が先にデプロイメントバッグから引き出されることがないか、をチェックすることが重要です。



重要：
横方向の異常な荷重負担を避けるため、どちらか１つのループだけでなく、ブライダルは必ず肩ベルトの２つのループへそれぞれ接続してください。




２．１．３　緊急パラシュートの装填

緊急パラシュートをハーネスのコンテナへ装填するさいは、引き出しハンドルが外から見えていて、ハンドルが外側を向き、ハンドルのデプロイメントバッグへの取り付けループが上側にくるようにしてください。





後の作業が楽になるように、セーフティーピンどめ用の付属のバンジーループの中に細いヒモ（パラグライダーのボトムラインなど）を通しておきます。このヒモとバンジーループをハーネスパラシュートコンテナのフラップのハトメ穴で一番小さなものに通してください。
いろいろあるフラップを、以下の写真の順番で閉じていってください。






ハンドルについているメタルピンを、透明カバーの内側でハトメ穴から引き出したバンジーループの中へ差し込みます。メタルピンが差さったら、バンジーループ引き出しに使った細ヒモをはずしますが、このときバンジーを摩擦で傷めないように注意深くゆっくりと引き抜いていってください。最後にハンドル基部左右が伸縮性のカバーの下に来ていることを確認してください。

重要：
緊急パラシュートとハーネスあるいは外部取付けコンテナとの初めての組み合わせの場合は、必ず公認のハーネスあるいは緊急パラシュートのディーラー、あるいはパラグライダーインストラクターによってチェックしてもらってください。通常の飛行姿勢からの緊急パラシュートの開傘操作では、何らの支障無くスムーズに行なえなければなりません。

２．１．４　緊急パラシュート開傘操作
緊急時にすぐに確実にハンドルを握れるよう、普段のフライト中に定期的にパラシュートハンドルを触ってその位置を憶えておくことはとても重要です。

緊急時の開傘手順は以下の通りです。
・緊急パラシュートハンドルを見て、片手でしっかりと掴む。
・外側に向かってハンドルを引き、ハーネスコンテナから緊急パラシュートを引き出す。
・障害物のない空間を確認し、連続した動きで緊急パラシュートをパイロットおよびパラグライダーから自分自身とパラグライダーから離れた方向へ投げる。
・緊急パラシュートが開いたら、機体をつぶしてパラシュートに絡まないようにするために、少なくとも１本のＤライン、あるいはブレークラインを掴んでパラグライダーを引き込む。

２．１．５　パラシュートコンテナ フラップの閉鎖
座板下のパラシュートコンテナを片方しか使わない場合は、以下の方法で使用しないパラシュートコンテナのフラップを閉鎖してください。レスキューハンドルセットに入っているバンジーコード２本を用意し、ハンドルの代わりに予備ブライダルセットに入っているプラスチック ワイヤーを使用してください。こうする事でフラップが正しく閉じた状態が保て、不意に開いてくるのを防ぐ事が出来ます。




２．２　フロント緊急パラシュート
フロント緊急パラシュートコンテナは腹部側にあります。このコンテナは通常のパラシュートよりもパッキングボリュームの小さい軽量パラシュートの利用を想定しています。腹部のコンテナへパラシュートを装填する前に、先に付属のブライダルに接続してください。このブライダルは２本に分かれてハーネスの左右のメインカラビナへ接続されるようになっています。この方式で緊急パラシュートとハーネスを接続していると、緊急パラシュートは右からでも左からでも開傘することが出来ます。

２．２．１　レスキューハンドルとデプロイメントバッグの接続
オプションとなるフロントパラシュート装填では、必ず識別番号１３番のレスキューハンドルを使用してください。ハンドルの黒いループをデプロイメントバッグのループに通してからこの黒いループの中をハンドル本体をくぐらせて絞り接続します。このフロントコンテナでのスムーズな開傘には、ハンドルをデプロイメントバッグの中央にあるループへ接続してください。もしデプロイメントバッグにこのようなループが付いていない場合は、緊急パラシュートを購入したディーラーへ相談してください。

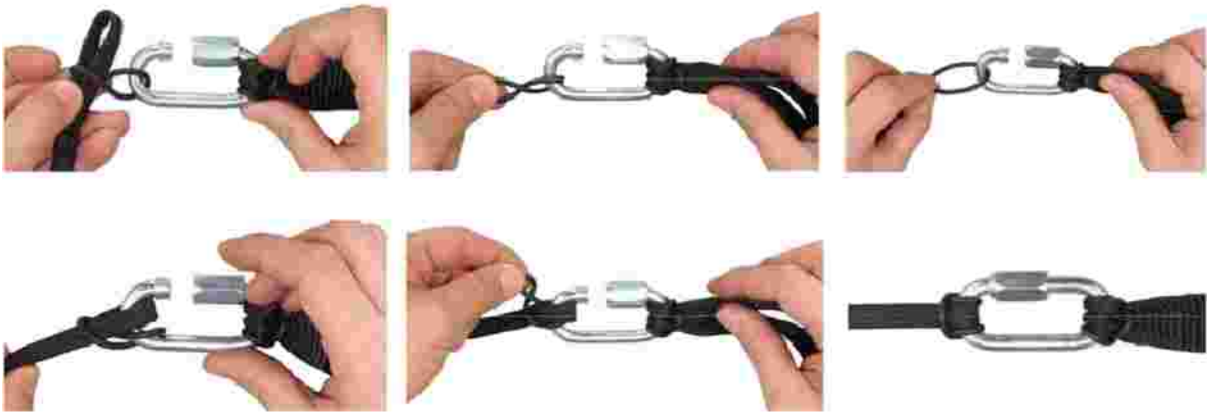


２．２．２　フロント緊急パラシュートとハーネスの接続

フロント装備の緊急パラシュートのブライダルとハーネスライザーの接続方法は２種類あります。

接続方法その１

2,400kg 以上の破壊強度を持つねじロック型のカラビナ（ラピッドリンク）を使用する方法。この場合、ブライダルに対してカラビナが回って横を向いて開傘時のショックで壊れることのないよう、ゴムバンドを用いて、ブライダルがずれないよう固定します。カラビナのねじロックはしっかりと締め、緩んできて開くことのないようにしてください。この方法は次の接続方法その２よりも高い開傘ショックに耐え、最もお勧めできる接続方法です。



接続方法その２

まず緊急パラシュート側のブライダルの端のループの中にハーネス側のブライダルを通し、つぎに緊急パラシュート本体をこのハーネス側のブライダル端の大きなループの中にくぐらせていき、２つのブライダルを引き絞って接続する方法。開傘ショックで合成繊維製のブライダル同士で摩擦が発生して破壊しないよう、出来るだけしっかりと引き絞ってください。そのうえで、結束部が緩んでこないよう、ハーネス側のブライダルについているベルクロで結束部を縛ってください。



２．２．３　フロント緊急パラシュートの装填

緊急パラシュートブライダルを、パラシュートコンテナ内側に縫い付けられている細いベルクロ帯に貼り付けて、左右のメインカラビナにつながる２つのブライダルループ部が左右別々に、そして左右均等、同じ長さでコックピットから外へ出てきているようにします。この２本のループ部によってコンテナの高さ調整も出来ます。ベルクロを下の写真のようにして、コンテナの一番隅のところで固定してください。もしちゃんと隅のところで固定できない時は、緊急パラシュートをいったん取り出して後述の装填作業をやり直し、もう一度注意深くコンテナの中のブライダルを揃えなおしてください。



緊急パラシュートをハーネスのコンテナへ装填するさいは、引き出しハンドルが外から見えていて、ハンドルが外側を向き、ハンドルのデプロイメントバッグへの取り付けループが上側にくるようにしてください。
後の作業が楽になるように、セーフティーピンどめ用の付属のバンジーループの中に細いヒモ（パラグライダーのボトムラインなど）を通しておきます。このヒモとバンジーループをハーネスパラシュートコンテナのフラップのハトメ穴で一番小さなものに通してください。フラップを、以下の写真の順番で閉じていってください。





ハンドルについているメタルピンを、ハトメ穴から引き出したバンジーループの中へ差し込みます。ハンドル基部左右を布製カバーの下に差し込みます。最後に、メタルピンを差したらバンジーループ引き出しに使った細ヒモをはずしますが、このときバンジーを摩擦で傷めないように注意深くゆっくりと引き抜いていってください。ピン確認の透明カバーが突いたフラップを赤いハンドル部の下を通して貼ります。緊急パラシュートをフロントコンテナに装填したら、２本あるブライダルのループをそれぞれ左右のカラビナへつながなければならないのですが、右側のループは右のカラビナへ最初からつなげたままとなり、左のループはテイクオフでハーネスを着るたびに左のカラビナへ取り付ける事となります。





フロントコンテナは小バックルでカラビナにつながっているほか、ジッパーでレッグカバーにもつながれていなければなりません。またパラシュートコンテナには同じくジッパーで計器コンパートメントが取り付けられています。




重要：
緊急パラシュートとハーネスあるいは外部取付けコンテナとの初めての組み合わせの場合は、必ず公認のハーネスあるいは緊急パラシュートのディーラー、あるいはパラグライダーインストラクターによってチェックしてもらってください。通常の飛行姿勢からの緊急パラシュートの開傘操作では、何らの支障無くスムーズに行なえなければなりません。
また、毎回テイクオフの前にフロントパラシュートのブライダルループが左右それぞれのカラビナへちゃんと取り付けられているか、確認してください。

２．２．４　フロント緊急パラシュートの引き出し操作

緊急時にすぐに確実にハンドルを握れるよう、普段のフライト中に定期的にパラシュートハンドルを触ってその位置を憶えておくことはとても重要です。

緊急時の開傘手順は以下の通りです。
・緊急パラシュートハンドルを見て、片手でしっかりと掴む。
・外側に向かってハンドルを引き、ハーネスコンテナから緊急パラシュートを引き出す。
・障害物のない空間を確認し、連続した動きで緊急パラシュートをパイロットおよびパラグライダーから自分自身とパラグライダーから離れた方向へ投げる。
・緊急パラシュートが開いたら、機体をつぶしてパラシュートに絡まないようにするために、少なくとも１本のＤライン、あるいはブレークラインを掴んでパラグライダーを引き込む。
・着地時には、負傷のリスクを出来るだけ減らすために、体を起こしておき、ＰＬＦ（５点接地パラシュートランディングフォール）が行なえるようにする。

２．２．５　背中収納ポケット

ハーネス後部のエアロダイナミック整形部の中に大小のリアポケットがあります。リアポケットを使用するにはまず、エアロダイナミック整形部のジッパーを完全に開けてリアポケットを使いやすくします。メインのリアポケットはリュックサックがぴったりと収納できるように設計されていて、鍵や財布・小銭といった小物の収納にはメインのリアポケットの上の小さなセカンドポケットを使用して下さい。ポケット及びエアロダイナミック整形部を閉じるには、ジッパーを閉じるだけです。



重要：
・リアポケットに荷物を詰め込みすぎると、エアロダイナミック整形部が正しく膨らまなくなる可能性があります。
・ハーネスの外形が滑らかに保たれるよう、背中の収納部へは均一に荷物を積込んで下さい。
・　収納物は全てリアポケットに入れ、エアロダイナミック整形部内でリアポケットの外には物を積まないで下さい。
・　エアロダイナミック整形部が正しく膨らむよう、エアロダイナミック整形部のジッパーは必ず全部閉めて下さい。

２．３　ハーネス調整
ＸーＲＡＴＥＤ６には多くの調整方法が設定されていて、最適のポジションに調整できるようになっています。この調整にはそれほど多くの時間はかかりませんが、フライト中の快適さは大きく変わってきます。

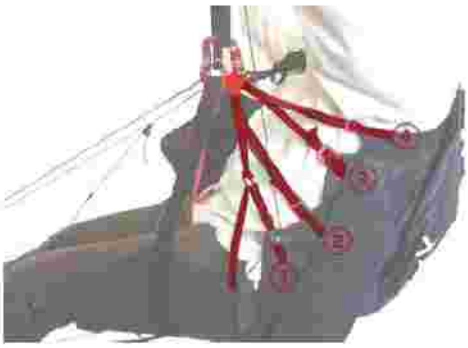


ＸーＲＡＴＥＤ６は出荷時に標準的な体型の調整がすでに施されていますが、パイロットの身長へ対応する調整は行っておりません。そこで、初飛行の前に他の調整はそのままで高さの調整だけを行う事をお勧めします。他の調整についてはほとんどのパイロットにとって満足できるものである事がわかっています。なお、全ての調整ベルトに赤い印が付けられていて、これら他の調整を行う際に、いつでもメーカー設定値に戻せるようになっています。

ＸーＲＡＴＥＤ６ハーネスのサイズ選択はパイロットの座板幅ではなく、身長で選択して下さい。座った姿勢を基本とするハーネスでは背面の高さは居住性にあまり影響を及ぼしませんが、ＸーＲＡＴＥＤ６ハーネスではパイトッロはもっと寝た姿勢で飛ぶために、背面の高さは居住性と正しい飛行姿勢を得るうえでとても重要になってきます。そこで、座板の幅は気にしないで特に背面の高さに注意して正しいサイズを選択する事が重要なのです。
最適の調整を得るためには、適切なシミュレーターからぶら下がり、飛行時と同じ装備･収納品を再現して飛行時と同じ条件･ポジションでチェックしてください。

重要：
- **あらゆる調整作業を行う前には、まず緊急パラシュートを装填してください。**
- **調整は必ず左右均等に行ってください。**
- **全ての調整ベルトは緩みのない張った状態にして下さい。**

２．３．１　背中と座板の調整
下記の写真に示すとおり、背中と座板の調整は、背中の上部から腰まで多くのポイントでパイロットを支えるように配置されています。これら全ての調整でパイロットが上手に支えられ、全てを背中で支えるようにする事も可能です。



写真の中で、調整ポイント１番で脚（太もも）と背中の間の角度（シートの深さ）を調整でき、腰椎と座板への荷重配分を変えて居住性を追求できます。調整ポイント３番で、垂直方向に対して上体をどれだけ後へ傾けさせるかの基本的な角度調整を行います。その上でさらに調整ポイント２番と４番で背中の荷重配分を最適化します。

調整に際しては、メインの調整の前に上側に来ている部分のベルトを緩めておき、その下のメイン部分のベルトを調整してより良い居住性が得られたら、もう一度上側にきているベルトもしっかり絞って調整をロックします。





２．３．２　肩ベルトの調整
肩ベルトを調整することでハーネスをパイロットの身長に合わせます。その調整バックルは下の方の、シート後端近くにあります。また、肩ストラップはパイロットの上体の重さも一部サポートして居住性を向上させています。シート部と背中部分の配分調整が決まったら肩ストラップを調整し、肩に対してストラップが当たっていて、緩すぎたりきつすぎたりしないようにして下さい。





２．３．３ 胸ストラップの調整
胸ストラップで２つのカラビナ間の距離を、４０～５５ｃｍの間で調整します。Ｘ-ＡＬＰＳで初めて飛ぶときは胸ストラップを一番短くしておき、飛びながら少しずつ調整していって好みの長さを見つけていってください。胸ストラップが短く、きついほど安定性が高くなります。カラビナ間の距離を広げ過ぎてもパラグライダーの操作性は向上しません。また、狭くし過ぎた場合、非対称つぶれからのツイスト傾向を悪化させる恐れがあります。





２．３．４ 脚ストラップの調整
ゲットアップシステムの特徴として脚ストラップの付根の位置は高くなっているので、脚の動きがとても自由です。通常はファクトリーセッティングで問題ないはずですが、離陸後に着座姿勢をとりにくい場合は、シートの下の脚ストラップ調整部を締めてください。これでブレークハンドルを離さずに楽に着座姿勢を取れるようになります。

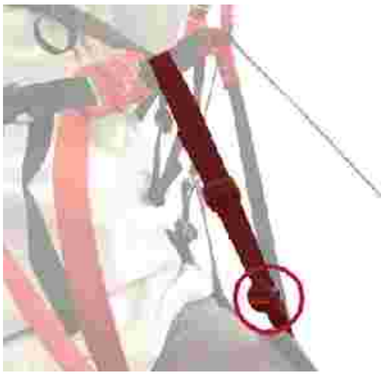
２．２．５ スタビライザー
この小さいけれど大切な調整装置によって、スピードバーを踏み込んだときの背中のよじれを抑えてハーネスを安定させることができます。その作動原理はとても簡単で、スピードバーを踏み込んだときに

この小さなプラスティックバックルが肩ストラップを胸ストラップにつながっているところでおさえて、ハーネスのストラップシステム全体をよりしっかりと固くして、ハーネスの安定性を向上させています。この調整はファクトリーセッティングのままにしておいてください。



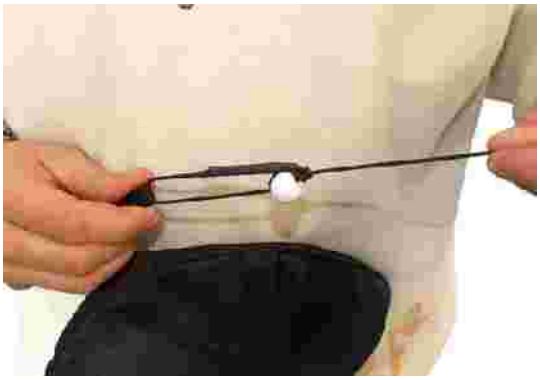
２．３．６　ABS の調整

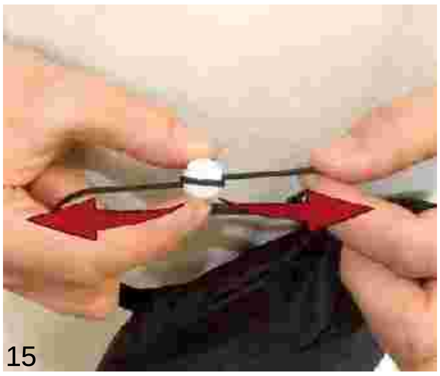
この調整は機体の操作性に影響します。ゆるくしていくとハーネスの安定性は減ってパイロットの動きに対して敏感になります。逆にきつくしていくとハーネスは安定性を増して飛行中の操作により大きな動きが求められます。
Ｘ-ＲＡＴＥＤ６のＡＢＳのファクトリーセッティングはほとんどのパイロットに適したものですが、もし調整をする場合、十分に注意して毎回数ミリメートル程度のとても小さな調整量で行ってください。
また左右の調整が厳密に均等であることにも注意してください。

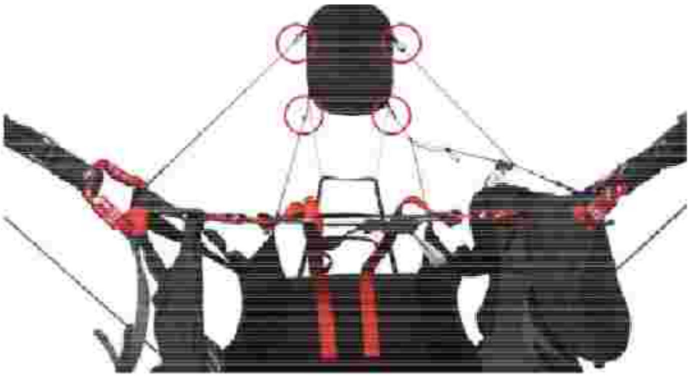


２．３．７ レッグカバーの調整

レッグカバーは特別な防風・防水素材のライクラで出来ています。また前あわせ部にマグネットを仕込み、高速飛行時にも「はためき」現象が起こらず閉まったままでいてくれます。レッグカバーの自動クローズシステムは工夫を凝らしたヒモの配置を用いていて、離陸後のパイロットの脚入れがさらに楽になっています。
レッグカバーの長さは下図に示されたカバー内側の４個の小さな白玉で調整できます。フットレストは膝が９０度に曲がった、自然で快適な状態になるように調整されています。レッグカバーの長さはパイロットの必要に応じて左右均等に変更できます。







２．３．８　スピードバーの調整

Ｘ－ＲＡＴＥＤ６は３段スピードバーが標準装備されています。最初の２段はフレキシブルですが、最後の段は固いリジッドなものになっています。スピードバーシステムの長さ調整は、まずハーネスの調整がしっかり完了してから行なってください。スピードバーの調整を正確に行うには、シミュレーターにぶら下がってパラグライダーのライザーを接続し、他の人にライザーを持ち上げてもらって、スピードバーストラップの長さを調整してください。足を離したときにフットレストがハーネス前部の下１０ｃｍ以内にくるようにしてください。ヒモを短くし過ぎるとスピードシステムが常に引かれた状態になり、飛行中に意図せずに作動してしまう恐れがあります。はじめのフライトではスピードバーをやや長めにしておいてフライトごとに少しずつ短くしていくのが安全です。また、調整の際は、左右均等に行うよう注意してください。

フットレストの変更を希望される場合も、このハーネスは全ての通常タイプのスピードバーの使用が可能です。フットレストから伸びるヒモは、まず座板中央のゴムヒモに取り付けられているループの中を通し、今度は座板の後ろ角近くにあるプーリーを経て上へ向かい、レッグカバーの小さなハトメ穴を通って、パラグライダーのライザーにある取り付けポイントへつなげます。なお、ウッディーバレーの全てのスピードバー/フットレストについてくる２本のゴムヒモは必ず使用してください。このゴムヒモをフットレストの下側にある２つのループに結んでおくことでスピードシステムが常に適切に伸ばされ、すぐに使える状態を保ちます。



３　Ｘ－ＲＡＴＥＤ６での飛行

３．１　プレフライトチェック
安全性を最大限確保するために、プレフライトチェックは完全で漏れのない手順で、毎回フライトごとに行なってください。
確認事項：
・２つの胸ベルトバックルと「ミニＴロックシステム」が正しく閉まっているか。氷や雪などの障害物が挟まっていないか。必ず氷や雪を拭ってからバックルを閉めること。
・緊急パラシュートのハンドルが正しい位置に止まっていてセーフティーピンがしっかりと差し込まれているか。
・ポケットやジッパーが開いていないか。
・パラグライダーがハーネスに正しく接続されているか。２個のカラビナが本来のロックシステムどおりに正しくロックされ閉じているか。
・スピードバーがパラグライダーに正しく取り付けられているか。

３．２　ポケット
Ｘ－ＲＡＴＥＤ６には大容量の背中コンテナといろいろなサイドポケットがついています。サイドポケットのうち２つは左右のカラビナの近くにあり、セーフティーループも付いていて、無線機や携帯電話の収納に最適です。ほかに大き目のサイドポケットもあります。計器デッキはコックピットから簡単に取り外す事が出来るように設計されており、ブリーフィングに携行したりハーネス収納時に押しつぶされるのを防いだりできます。またこの計器デッキはジッパーが付いていて、飛行中にバラストコンパートメントにアクセスし、ランディング後は完全に取り外すことが出来ます。さらに、デッキには2mm厚のネオプレンカバーが付いていて、不意のブローなどで計器が傷むのを防ぎます。ハーネスからコンテナをはずすと、計器デッキの下にあるジッパーポケットも使うことが出来ます。









３．３　給水キャメルバッグ

Ｘ－ＲＡＴＥＤ６は給水キャメルバッグ装備の機構を持っています。背中コンテナの中の専用コンテナポケットにキャメルバッグを入れたら、背中コンテナの上部左側に開口している穴に給水ホースを通し、左肩ベルトのライクラ製伸縮カバーの下を通って写真で示されている穴から前へ出してください。

バラストの装着には、下の写真を参照して下さい。




３．４　フロントバラストの装着とコックピットの使い方

コックピットは完全に再設計されました。レッグカバーと一体化したエアロダイナミックな形状で、ジッパーで取り外すことが出来、計器パネルの下に4.5リットルのウオーターバラスト（通常）か、小型の緊急パラシュート（オプション）のいずれかを装備することが出来ます。地上で動いている時にコックピットが安定しているように、胸ベルトにプラスティックバックルを付け加え、コックピットの傾きを抑えて脱落を防止しています。
バラストの仕切りには排水チューブの通路があり、用意されている穴を通して右のサイドポケットの中に収納しておき必要な時に引き出す事が出来ます。


1

2

3

4

5

6

（１）計器パネルの下のジッパーを開くと、（２）下がバラスト収納部になっています。（３）右下の排水チューブを通過させる穴をふさいでいるベルクロカバーを開きます。（４）排水チューブを通します。（５）ハーネスの内側から右の外付けサイドポケットの内側にもう１つ穴が開いているので、排水チューブを外付けサイドポケットの中まで通しておきます。（６）普段は排水コックを外付けサイドポケットの中へ隠しておいて、排水時に引き出して使用します。

３．５　下部バラストの装着

Ｘ－ＲＡＴＥＤ６は座板の下に 5.5 リトルのウオーターバラストを装備しています。排水口と排水コックはハーネス左下の底部にハーネスに一体化して装着されていて、飛行中に左手で排水操作を行う事が出来ます。このウオーターバラストの装着方法は以下のとおりです。





（1）バラスト収納部は座板の下です。座板の前を持ち上げてバラスト収納部のジッパーを開き、向かって右奥の穴へ排水チューブを通します。（2）排水チューブを全部通し、ウオーターバラスト本体もバラスト収納部の中へ詰め込んでジッパーを閉じます。（3）ハーネス本体左下、ハーネス底部の角にある穴へ向けて排水チューブを伸ばします。（4）ハーネス本体左下の小さな作業用ジッパーを開きます。（5）排水口と排水コックのハンドルをそれぞれ所定の穴へはめ込んだら、（6）作業用ジッパーの中にある赤いベルトの付いているベルクロで排水チューブを固定します。（7）完成です。






３．５　アンチＧ

アンチＧドラッグパラシュートは、スパイラルダイブ中の重力加速度Ｇを軽減してより安全なスパイラル降下を可能にした安全機材です。このシステムの使い方はとてもシンプルでどんなタイプの機体でも使えます。

Ｘ－ＲＡＴＥＤ６にはアンチＧを装着するための、特別なポケットが設定されています。このポケットはパイロットの腰の下にあり、左右がつながっていて、中にこの小さなドラッグシュートのブライダルを接続するためのラピッドリンクが取り付けられています。ちょうどハーネス両サイドにある小さなエアインテークの上にあり、パイロットにとって見つけやすい位置です。アンチＧの正しい使用法は、スパイラルに入れる方向によって右か左かのジッパーを開き、スパイラルに入れる前にアンチＧを引き出して開傘させておきます。アンチＧを使う事によって、より高い降下率と最大 40%におよぶ重力加速度Ｇの低減という利点があります。こうしてスパイラル降下したあと、アンチＧのハンドルを使ってこのドラッグシュートの効きを止めて、ドラッグシュートは開いたまま（ただし効きは止めて）でいつもどおりに着陸する事が出来ます。またハンドルを使用して効きを止めたドラッグシュートを回収してポケットに納め、ポケットのジッパーを閉じれば、またアンチＧを使用することが出来ます。

警告：

確実にアンチＧドラッグシュートを正しく使うために、取扱説明書に記載されているインストラクションをしっかりと読んで理解しておく事が大切です。







（1）「アンチG」サイドポケット、（2）（3）（4）ドラッグシュートのブライダルを接続するラピッドリンク（5）（6）ドラッグシュートの引き出し例







３．７　水上でのフライト

水上でのフライトに関して、Ｘ－ＲＡＴＥＤ６で特に問題となる点はありませんが、いずれにしても着水は常に危険である事に違いはありません。水上を飛ぶ可能性がある場合は、適切なフライトジャケットを使用してください。

３．８　トーイング

Ｘ－ＲＡＴＥＤ６はトーイングでの離陸に用いる事が出来ます。トーイングブライダルのリリースは必ず、カラビナに直接かけてカラビナの開閉ゲートがリリースとは逆の後ろ側を向いているようにしてください。詳細はトーイングリリース機材に付属の説明書を読むか各人のフライトエリアにいるトーイングの資格を持ったインストラクターにお聞きください。

３．９　ランディング

ランディングの前に座板から足をずらせて出して立ち上がり、スタンディング ポジションをとっておきます。決して座った姿勢では着陸しないで下さい。高レベルのパッシブ プロテクションとなる背中のフォームプロテクションを装備しているとは言え、これはパイロットの背骨にとってとても危険なことです。ランディング前に確実にスタンディング ポジションをとっておくことは、アクティブ セーフティーの事前準備であり、事故が発生してからの受身のパッシブ プロテクションに比べて、はるかに有効です。

３．１０　ハーネスの廃棄

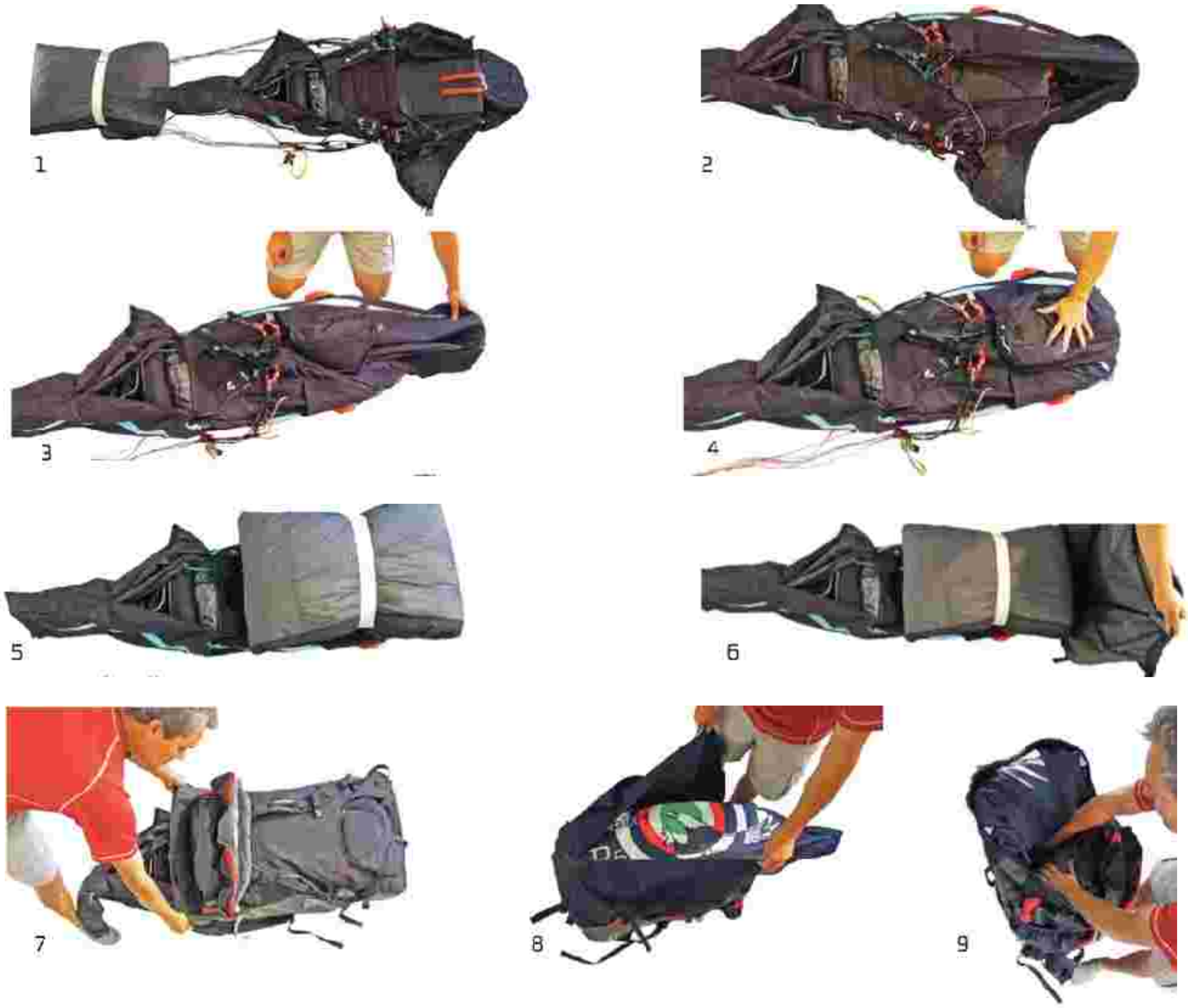
パラグライダーハーネスに使用されている素材には、正しい廃棄方法が求められています。一般ゴミとして廃棄する代わりにメーカーまでお戻しください。メーカー側で正しい廃棄処分を行います。

３．１１　自然環境における活動への注意

スカイスポーツ活動において環境に配慮しましょう。勝手に許可されていない場所に立ち入ったり、ゴミで自然を汚したり、騒音を出したりしないよう、注意しましょう。

4　ハーネスの収納

（1）Ｘ－ＲＡＴＥＤ６はパラグライダーと接続したままでも単体でもどちらでもリュックサックへ収納できます。以下の写真を参考にして下さい。（2）（3）レッグカバーを折りたたみます。（4）フットプレート部を座板の上へ載せます。（5）フットプレートの上へパラグライダーを載せます。（6）フットプレートのあった側から、リュックサックの担ぎ手側を上にしてリュックサックを滑り込ませます。



（7）いったんハーネスがリュックサックに入ったら、（8）全体をひっくり返してジッパーを閉じます。（9）リアテール部は内側へ折り曲げます。（１０）～（１３）このハーネスで使用している素材で、特に飛行中の機能に影響が出るなどで折りたたみに注意するところはありません。リュックサック上部には計器やヘルメットの収納に充分なスペースが残るはずです。



5　特徴とオプション装備の内容と取り付け

５．１　バラストバッグ

ウッディーバレー社のバラストバッグには、排水チューブ・排水コックのほかにハンドルつきのキャリングバッグが用意されています。このバラストバッグ自体は最大７リットルの水が入り、コックピット下部のセントラルバラスト区画や座板下の下部バラスト区画に装着できます。





6　メンテナンスと修理

衝撃が加わったとき、着陸あるいは離陸に失敗したとき、あるいは損傷や顕著な消耗が見受けられたときは、ハーネスを点検してください。また、ハーネスは２年に１度、販売者に点検してもらうことと、２年に１度メインカラビナを交換することをお勧めします。
ハーネスの不要な損耗･劣化を防ぐために、地面や石、ザラザラした場所でハーネスを引きずる事は極力避けてください。本来のフライト活動以外に紫外線（直射日光）が不必要に当たらないようにしてください。できるだけ湿気や高温からハーネスを守ってあげてください。
パラグライダー機材は全て、涼しく乾燥した場所で保管し、濡れたり湿気を含んだままでは放置しないでください。
ハーネスはできるだけキレイに保ち、定期的にプラスティック ブラシや絞った雑巾で土を落としてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤と水で洗い、直射日光を避けて風通しの良い場所で自然乾燥させてください。
ジッパーは常に清潔に保ち、定期的に乾式シリコンスプレーで潤滑を保ってください。
もし緊急パラシュートが濡れた場合（着水など）は、必ずハーネスから取り出して乾燥させ、リパックしてからハーネスコンテナに収納しなおしてください。
ハーネスの修理や部品交換は、パイロットが行ってはならず、ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家のみが作業いたします。ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家だけが、認定どおりの製品の正しい機能を保つことの出来る素材と技術を持っているのです。
メンテナンス作業の要望でウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家へご連絡、発送いただく場合は、リアポケット内の銀色のラベルに記載されている識別番号を全桁、お知らせください。
高性能で軽量なハーネスを実現するために、Ｘ－ＲＡＴＥＤ６では高級な素材を使用していますが、標準的なハーネスよりも軽量な素材を使用していますので、Ｘ－ＲＡＴＥＤ６の使用・収納の際は、常に細心の注意をお願いいたします。正しい使用によってハーネスは長持ちします。
皆様が、Ｘ－ＲＡＴＥＤ６によって素晴らしいフライトを楽しまれることを願います！

７　テクニカルデータ

Ｘ－ＲＡＴＥＤ６
カラビナと座板の距離　/　Ｍサイズ 44.5㎝・Ｌサイズ 47㎝・ＸＬサイズ 49.5㎝
左右のカラビナ間の距離（最小～最大）　/　３サイズ共通 39.5～50㎝
ポリカーボネイト製座板サイズ　/　Ｍ　幅 リア 23.5㎝ フロント 21㎝　深さ 36.8㎝
ポリカーボネイト製座板サイズ　/　Ｌ　幅 リア 25㎝ フロント 22.5㎝　深さ 39㎝
ポリカーボネイト製座板サイズ　/　ＸＬ　幅 リア 26.5㎝ フロント 23.5m　深さ 41.5㎝
重量（パラシュートハンドル・カラビナ・プロテクター装備）/　Ｍ 5.80kg・Ｌ6.40kg・ＸＬ7.00kg
プロテクション方式　/　１２ｃｍムース
脚ベルト方式　/　ミニＴロック付ゲットアップ
緊急パラシュートコンテナ　/　座板下にハーネス一体型コンテナ　側部にハンドル
認定　/　LTF EAPR-GZ-7439-12
バラスト容量　/　上部：3.5 リットル・下部 4.5 リットル

この取扱説明書に記載の内容には万全の正確を期していますが、
記載内容はあくまで参考である事を御理解ください。

この取扱説明書は予告なく変更されるものです。Ｘ－ＲＡＴＥＤ６の最新の情報は、
ウッディーバレー社のホームページ　http://www.woodyvalley.com
あるいは、㈱スポーツオーパカイトのホームページ　http://www.opa.co.jp
でチェックしてください。

更新月日：　2012 年７月

WoodyValley